

【お知らせ】

およそ25年前、私が牧師となって間もなくの「牧師会」の休憩中に、ある親子について話題となっていました。「お母さんと二人の子どもたちが1宿1飯を求めて教会を巡り歩いている」というものでした。それを聞きながら、「もし熊谷にその親子が来たら、何か出来るだろうか？」そんな事を考えていました。数週間後、熊谷駅前の公衆電話から1本の電話がありました。間違いなくその親子でした。私に与えられた思いは、「関わろう」というものでした。小学2年生と1年生の男の子たちは、学校に通うことなく転々として過ごしていたそうです。熊谷市役所福祉課に相談した結果、「牧師さんが身元引受人となってくれるなら、生活保護を申請しましょう」という事になりました。教会の側にアパートを借り関わりが続きます。夏休み期間が終わる頃には色々と整い、子どもたちは学校に通いました。日曜日には教会に子どもたちがやって来て、お母さんがついて来ましたが、お酒に酔っていたため送り返すことが度々ありました。

半年が過ぎようとした頃、この関わりに終止符が打たれます。お母さんが飲酒によって著しく健康を害し、緊急入院しました。熊谷市内の病院で、ドクターとナース、熊谷市役所の福祉課の方、埼玉県教育委員の方が集い、牧師も呼ばれました。そして、「教会で保護されたのだから」と、大利根町にあるキリスト教児童施設「光のこどもの家」に引き取られる事となりました。その後、数回子どもたちを訪問しました。

数年前に、NHK プロデューサーの辻さんから連絡があり、「今ドキュメンタリー番組を制作していて、かつて教会でお世話になった弟君が、最後のシーンを熊谷キリスト教会で撮りたいと言っている」との事でした。その撮影は実現し、青年となった弟君と会いました。お母さんの葬儀を施設で行われた際に会って以来でした。この番組は、イラン人でモデル、俳優、コメンテーターをしているサヘル・ローズさんの初監督映画「花束」の傍らで作りました。サヘルさん自身戦争孤児で児童福祉施設に育った方です。(熊谷キリスト教会牧師・小澤聖)

ETV 特集

サヘルと8人の子どもたち

初回放送:5月25日(土) NHK Eテレ 午後11:00~12:00

(再放送:5月30日(木) NHK Eテレ 午前0:00~01:00 ※ 水曜日の深夜)

自分と同じように傷みを背負って生きる若者たちと映画を作りたい。俳優サヘル・ローズの呼びかけに応じて8人の素人の若者が参加して映画「花束」の撮影がスタートしたのは2020年のことだった。監督のサヘルも若者たちも児童養護施設出身。複雑な家庭の事情を抱えて生きてきた。撮影現場は、傷みを分かち合う「居場所」のようになり、「表現」は気持ちを吐き出す手段となっていった。映画完成までの日々を追った4年間の記録。

